

令和6年度 山形県立楯岡特別支援学校 校長室だより

令和6年8月30日(金)

No.4

校長：古原 常能

楯岡校では、国際ソロプチミスト東根より、教材の寄贈を受けました。ボッチャ、カローリング、モルック卓球バレーボール等、総額50万円になります。この教材を活用し、高等部では、他校との交流学习を計画しています。本校の児童生徒が活用する他、小中学校等の希望に応じて貸し出しも行います。現在パリでは、パラリンピックが開催されています。楯岡校を起点に様々なかたちでパラスポーツ体験や交流学习を広げていきたいと考えています。



今年度、寒河江校は創立10周年を迎えます。それを記念して保護者と教職員が色々なシンボルマークを考案し、投票によって写真のマーク「わくわくの心 すすく育て」に決定しました。このマークを絵本が入る大きさの袋にプリントし、記念品として児童と教職員及び、関係機関に配付する予定です。さらに、10月にはミニチュアホースを寒河江校に迎えて、動物とのふれあい体験を計画しています。

大江校では、今年も大江ロータリークラブのご協力により、スクールコンサートを開催することができました。県内外で活動する「アンサンブルノエル」というクラシックグループで、フルート、チェロ、ピアノ等の演奏者が出演しました。生徒は、聴き馴染みのある曲を楽しむと共に、ハンドベルの演奏にも挑戦し、大変楽しい時間を過ごしました。



トピックス：医療との連携がとても大切です！

学校生活においては、担任の先生を中心に、児童生徒の障がいと心身の留意事項を把握し、合理的配慮を行っています。**ところが**、児童生徒の中には、気持ちが不安定になり、自傷、他害、物損等、危険な行動を起こしてしまうことがあります。これは、環境調整をしても自分の力ではどうにもできず非常に困っている状況です。**この状況を改善できるのが医療**です。

児童生徒の困っている状況を改善するため、専門の医師は薬を処方します。薬は、一定期間服用することで効果が出てくるのが一般的です。即効性がある薬を併用することもあります。**薬を服用したことで衝動的な行動が治まってきた**児童生徒はたくさんいます。薬の使用に抵抗がある方は、専門の医師に薬の特徴や服用の注意点等を確認してみてください。